

AGU NEWS No.40

青山学院大学

AGUニュース第40号
[2008年1月～3月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111(代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



男子バスケットボール部(第59回全日本学生バスケットボール選手権大会決勝戦)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

「学長対談」

文学部 伊藤 定良教授が16代学長に就任。
武藤 元昭前学長とともに、これまでの4年間を振り返り、
これからの4年間を考える――。

AGU TOPIC

国際政治経済学部創設25周年記念式典
中曽根 康弘元首相が「世界における日本の役割」と題して講演

TOPICS

経済学部中村ゼミが「学生の集い」において最優秀賞受賞
魅せる!青学スポーツ
「新司法試験」で本学法科大学院から合格者7名輩出!

報告・お知らせ

読書教養講座「小久保 裕紀氏講演会」
青山MBA特別フォーラム開催

誌上公開講座

青山スタンダード フレッシュヤーズ・セミナー
「中世フランスの王と貴族たち」

INFORMATION

春期休業中の窓口案内
大学学費改定について



「学長対談」

文学部 伊藤 定良教授が16代学長に就任。

武藤 元昭前学長とともに、これまでの4年間を振り返り、これからの4年間を考える——。

2007年12月、武藤 元昭教授が4年間の任期を終了し、新たに選出された伊藤 定良学長に、青山学院大学の“歴史”を引き継がれました。

2009年に創立135周年を迎える青山学院は、大学においても現在、積極的に“改革”を推進している真っ最中。

これまでの4年間で武藤学長が成し遂げた改革、伊藤学長に引き継がれる改革、そして新たに取り組む改革……。

今回は、AGUニュース編集委員長の仁科 貞文教授(文学部)の司会進行のもと、武藤 元昭前学長と伊藤 定良学長による「学長対談」を実施し、これから青山学院大学が進むべき改革の道を探ります。



前学長 武藤 元昭

学長 伊藤 定良



学長 伊藤 定良

PROFILE

■**学歴** 東京大学文学部第2類西洋史学専修課程卒業／東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程修士課程修了／東京大学大学院人文科学研究科西洋史学専門課程博士課程単位取得退学／最終学位[文学修士]

■**職歴** 日本大学文理学部助教授

■**学生指導及び学内行政担当** 文部部长／大学院文学研究科長／評議員

■**所属学会** 現代史研究会／歴史学研究会／歴史科学協議会／史学会／社会思想史学会／青山学院大学史学会／日本西洋史学会

■**社会的活動** ●1991/09～1999/01：日本学術会議歴史学研究連絡委員会国際交流小委員会委員 ●1993/10：青山学院大学・渋谷区共催公開講座「安定と激動と—ヨーロッパの国々—」第4回講師(テーマ：近代ヨーロッパへの問い—ドイツを中心に) ●2000/11～2000/12：JALシニアーズアカデミー「人間の歴史」「19世紀ドイツ」 ●2005/06：市民シンポジウム・杉並ほっとコミュニケーション第7期「交流と衝突と国家と—東西世界の歴史経験から—」「国民というまとまりの誕生—長い19世紀「ドイツ人」と「ポーランド人」」

武藤学長が務めた激動の4年間に振り返る



司会 本日はお忙しいところ、スケジュールを調整していただき、ありがとうございます。さて早速ですが、まずは武藤“前”学長に、この4年間に振り返っていただきたいと思います。あの、前学長と呼びづらいので、本日は便宜上、お二人とも“学長”と呼ばせていただきます、学長対談ですから(笑)。では武藤学長、4年間の任期はいかがでしたか。

武藤 4年前は、まさか自分が学長になるとは予想していませんでした。戸惑いの連続でスタートしたのを覚えています。あれから、もう4年経つんですね。思い返せば、本当に周囲の人に恵まれた4年間でした。3名の副学長はもちろんですが、裏方に徹してくれた事務職の方々にも本当に助けられました。

伊藤 参考までにお聞きしたいのですが、学長になって何か困ったことはありましたか。

武藤 時間がなくて自分の研究が出来ないことですかね(笑)。それと、確か学長に就任して間もないころに、ふと「これをこうしたら?」と、軽い思い付きで言ったことがあったんです。すると翌日には「学長、昨日の件、やっておきました!」と。これは迂闊なこと言えないなと思いましたね。学長の言葉ですから、周囲の人にとっては職務命令になるわけです。学長の立場と責任の重さを感じた瞬間でした。

伊藤 それにしてもこの4年間は、本学にとって動きの激しい時期だったと思います。2003年度の相模原キャンパス開学、青山スタンダードのスタート、その後の専門職大学院の整備、さらには2008年度に控えた「総合文化政策学部」と「社会情報学部」の設置も合わせて、今の青山学院大学の“器”を築かれた4年だったと思います。

武藤 相模原キャンパスと青山スタンダードの件は、私の就任前から決まっていたことですが、やはり軌道に乗せるという意味で相当なプレッシャーは感じていました。最近になって世間でも学際的な学びが注目を集める機会が多くなりましたが、文理融合型の相模原キャンパスにしる、学部・学科の枠を超えた幅広い教養が身につく青山スタンダードにしる、その当時は期待と不安が半分半分でした。世の中の流れに逆らうことなく、青山学院大学としてのスタンスをしっかりと築くことができたかなと、今は感じています。

司会 世の中の流れという意味では、専門職大学院が担う役割も大きいですね。

武藤 その通りですね。2001年から2005年にかけて、国際マネジメント研究科、法務研究科、会計プロフェッション研究科の3つの専門職大学院を設置し、多くの方々に“学べる環境”を提供しました。専門職大学院に、社会人を中心に優秀な人材が集まり、自身のスキルに磨きをかけ、そして職場に戻って成長した力を存分に発揮していただく。これも大学が行える、立派な社会貢献の形ではないでしょうか。

伊藤 そして今度は私が、ふたつの新学部「総合文化政策学部」と「社会情報学部」を軌道に乗せる役割を担いました。もちろんプレッシャーは

感じますが、学長として、しっかり成功に導きたいと考えています。

2008年4月設置の新学部「総合文化政策学部」「社会情報学部」について



司会 新学部に関しては、両学長ともにそれぞれの思い入れがあると思います。その辺りはいかがですか。

伊藤 本学では国際政治経済学部以来の新学部設置となるわけですが、このふたつの新学部は、現代の社会が抱える問題に対し、青山学院大学がどう対応すべきかを熟考したうえで出した答えであると認識しています。グローバル化の進む21世紀では“文化”や文化交流の持つ意味が重要となっていますが、そこで世界に文化を発信する人材を育てる「総合文化政策学部」。そして、高度情報化社会における生活に欠かせない“情報”の存在に正面からアプローチする「社会情報学部」。これら2学部は社会に耳を傾けた結果、誕生する学部だと言えます。

武藤 そうですね。本学の歴史を繙いてみますと、1949年の文学部(当時は商学部も同時設置。後に経済学部へ改組)を皮切りに、経済学部、法学部、理工学部、経営学部、そして1982年の国際政治経済学部という流れで学部が設置されてきました。実は、これまでの学部の設置は、すべてトップダウンによるものだったのです。一方で新学部となる総合文化政策学部と社会情報学部に関しては、本学始まって以来初めて、教授会側からの提案で設置される学部となります。それだけに、社会の声がより一層反映されている学部だと言えるはずなのですが…、設置までの道のりは相当険しかったですね。

司会 民意を反映するものですし、スムーズに進みそうな気がしますが…。

武藤 私もそう思っていました。でも簡単には進まないのです。その要因はいろいろありますが、やはり学部設置に26年もの間が空いたことも多少は影響しています。例えば何か議論をしているときに、「国際政治経済学部のときはこうだった」と言っても、「26年も昔のことは特例だろ」となるわけです。それと、最近の学問は全体的に学際的な方向に進んでいます。そのため既存学部の立場で考えると、ただでさえ他大学との競争が激しいうえに、新学部が出来ることで、自分の大学内でも受験生の奪い合いになるのではと、不安感が先行してしまうのです。お互いに高め合うようにと前向きになれればいいのですが、なかなか難しいものです。最終的にGOサインが出るまでは、本当に試行錯誤の繰り返しでした。

伊藤 それだけ産みの苦しみを味わいながら誕生する新学部ですから、既存学部ともいい意味でシナジー効果を発揮し、大学全体の盛り上がり結びつけたいですね。学長としてまず取り組むべき重要課題のひとつとして、尽力していきたいと思っています。



特集「学長対談」

伊藤学長が掲げる新しい“知”への挑戦



司会 武藤学長といえば、「通う大学から、暮らす大学へ」など、簡潔に方針をまとめた“キャッチフレーズ”が印象的でした。

伊藤 そうですね。武藤学長の言葉では、「居心地のいい大学、面倒見のいい大学、風通しのいい大学」のフレーズが印象に残っています。確かに簡潔でわかりやすく、大学の方向性が見えてきました。

武藤 「居心地のいい…」のフレーズは、確か学長に就任した際の所信表明のなかにも盛り込んでいたと思います。普段から思っていることや考えていることを単に言葉にいただけなのですが…。それでも言葉にして発表することで、進むべき方向、やるべきことが見えてくる効果はあるかもしれません。

司会 伊藤学長も何か考えてみてはいかがですか。

伊藤 普段から考えていることでよろしければ、「新しい“知”への挑戦」というのはどうでしょう。やはり学生が一番にやるべきことは学問ですから、“知”というキーワードにこだわりたいのです。知と言っても、単に学習面だけの話ではありません。大学にはいろいろな学生がいて、いろいろな教職員がいます。そして立派な施設・設備も整っています。この環境のなかでさまざまな出会いがあり、かけがえのない経験も積めるはずですね。そんな経験を通じ、学生たちが自分自身の「盲点」や「認識の歪み」などに気付くことで新たな発見が生まれ、そこから“知への欲求”が芽生えてきます。知ることは自分の世界を広げること。そして更なる知への欲求にもつながります。その積み重ねが自己を高めることになるはずですね。

司会 なるほど。「新しい“知”への挑戦」ですか。いいですね。そういえば先程、武藤学長の4年間は激動の時期という話がありましたが、まさに伊藤学長のこれからの4年間は、新しい挑戦の時期となりそうですね。

伊藤 そうなるでしょうね。激動の時期を乗り越えて、しっかりとした“器”を作ってくださった武藤学長の志を引き継ぎ、今度はその青山学院大

学という“器”に、中身を詰め込むことが私の役目です。新学部も含めて個性的な学部教育の充実、学部基礎をおく大学院教育の整備と研究科間の連携強化、専門職大学院の教育基盤の改善と強化を進めるとともに、総合研究所の充実や学術研究推進部のサポート体制の強化なども含めて、キャンパス全体で“知”を追究できる環境を整えていくつもりです。

“魅力ある大学づくり”が、正統なる歴史と伝統を築く



司会 2009年に創立135周年を迎える「青山学院」では、教育方針とスクール・モットーを基盤とした「アカデミック・グランドデザイン」を策定し、学院全体で21世紀の青山学院のあるべき姿、目指すべき道を明確にしようと取り組んでいます。もちろんそのなかで我々大学の担う部分は大きなものがあると思いますが、“青山学院のなかの大学”という観点で、何か構想はございますか。

伊藤 これは学院のプロジェクトの一貫である「キャンパス・ポリシー」にも明記されていることですが、ふたつのキャンパスの特色をそれぞれうまく生かしながら、ともに成長させていくことが必要でしょう。キャンパスコンセプトにも、青山は「歴史が創るキャンパス」、相模原は「歴史を創るキャンパス」とあります。まさにその通りで、地の利があり、機能的にもイメージ的にもアドバンテージのある青山はもちろんのこと、相模原においても社会情報学部の新設もありますし、キャンパスとしての更なる魅力づくりに取り組んでいく必要があります。

武藤 大学の魅力は、そのまま受験生の志望校選びにも結びつきますからね。昨今の少子化によって厳しくなる大学経営について、いつも考えていることがあります。それは多くの大学で受験生確保のために新しい入試方法の導入や見直しなど、目先の変化でその厳しい流れをくい止めようとする動きが見られることです。しかし、目先を変えただけでは、

1年か2年はしのげても、いつかはボロの出るときがきます。やはり、大学自体の魅力を磨くことこそが、今の時代に必要なことだと思います。

司会 入試改革よりも大学改革が大切ということですね。

武藤 そうだと思います。もし入試に目を向けるとすれば、青山学院大学の全国的なイメ



左:伊藤 定良 学長 中:武藤 元昭 前学長 右:仁科 貞文 文学部教授(司会)



新大学執行部紹介



副学長
長谷川 信

■**学歴** 東京大学経済学部経済学科卒業／東京大学大学院経済学研究科修士課程修了／東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学／最終学位[経済学修士]

■**職歴** 静岡大学教育学部助教授

■**所属学会** 社会経済史学会／土地制度史学会／経営史学会／企業家研究フォーラム



副学長
岡田 昌志

■**学歴** 東京工業大学工学部機械工学科卒業／東京工業大学大学院修士課程機械工学専攻修了／東京工業大学大学院博士課程機械工学専攻修了／最終学位[工学博士]

■**所属学会** 日本機械学会／日本冷凍空調学会／日本伝熱学会／日本熱物性学会



副学長
土山 實男

■**学歴** 青山学院大学法学部公法学科卒業／ジョージ・ワシントン大学大学院修士課程国際政治学専攻修了／メリーランド州立大学大学院博士課程国際政治学専攻修了／最終学位[Ph.D.]

■ハーバード大学ジョンM.オリン戦略研究所客員研究員などを務めた

■**所属学会** International Studies Association／日本国際政治学会／国際安全保障学会／国際法学会

ージ展開を考慮して、地方入試の方向性は探ってみてもいいかもしれませんね。

司会 そういえば、最近の本学の傾向として関東近県の受験生の割合が多くなっているそうです。

武藤 あくまで全国的に知名度をあげるイメージ戦略が目的です。あまり受験者数を増やそう増やそうと考え過ぎると、かえって逆効果だと思います。

伊藤 そうですね。青山学院大学の理念やカラーをしっかりと伝え、賛同していただける方が集まることで、本学の歴史と伝統は守られてきました。その伝統を“魅力ある大学づくり”によって今後も続けていくことが大切だと思います。

社会に貢献し、常に世界を見据える大学であるために



司会 では、あらためて伊藤学長に、これからの抱負を語っていただきたいと思います。

伊藤 これは「知の追究」とともに、ぜひとも実現していかなければならないことだと考えていますが、本学を「社会、そして世界とともに歩む大学」にしていくことです。社会に有用な人材を送り出すことは大学の使命です。また、公開講座や高大連携、社・産学連携など、研究の成果を社会に還元することも大切な役割だと思います。すでに本学では社会との連携に積極的に取り組んでおりますが、更にその仕組みを活性化させていくつもりです。またそれと同時に、世界にも常に目を向け、世界の諸問題と真正面に向かい合っていく大学でありたいとも考えています。そのために文系・理系を問わず、教職員および学生たちの“国際交流”を図ることのできる場をこれまで以上に用意したいと思います。

武藤 非常に頼もしい限りです。4年という時間は長いようで短い、終わってみればあっという間です。私もやり残したことがたくさんあるような気がします。最初に抱いた思いを実現できるよう取り組んでほしいですね。

伊藤 最後に、学長の職務を全うするためのアドバイスをいただけますか。

武藤 いかに周囲と上手くバランスを取りつつ、事を進めていくか、ではないでしょうか。一人の力では、決して大学を動かしていくことはできませんから。それと何より「健康第一」です。生活のペースも変わってくるはず。ストレスもすごいですよ(笑)。当たり前かもしれませんが、健康には十分に気を付けてください。

伊藤 ありがとうございます。武藤学長が築いてこられた4年間をしっかり引き継ぎ、青山学院大学の次の時代を創っていきたいと思います。今後も引き続き、ご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

武藤 こちらこそ、よろしくお願ひいたします。

司会 本日は、長時間本当にありがとうございました。伊藤学長の「新しい“知”への挑戦」に期待しております。



国際政治経済学部創設25周年記念式典

中曽根 康弘元首相が「世界における日本の役割」と題して講演



国際政治経済学部
土山 實男 学部長

1982年に誕生した国際政治経済学部が学部創設25周年を迎えました。

同学部はわが国における国際学部のパイオニアとして、

またモデルとして着実な歩みをとげてきました。

国際政治経済学部では、この25周年を記念して、

11月13日には金鍾泌大韓民国元国務総理 名誉博士号授与記念講演会を、

12月1日には国際政治経済学部創設25周年記念式典を、

さらに14日には国際シンポジウム「拡大EUと東アジアの地域統合」を開催しました。

25年を迎えた国際政治経済学部の歴史を振り返るとともに、

記念行事に込められた同学部への期待について土山實男学部長にお話をお伺いしました。

アメリカ人宣教師によってその源流が設立された青山学院は、もともと国際社会との関係が深く、青山学院大学もまた世界に目を向けてきました。真の国際人を育てるには外国語の能力だけでなく、国際社会についての幅広い知識と理解が必要です。そこで国際政治と国際経済を柱とする国際政治経済学部が誕生しました。2006年には国際コミュニケーション学科もスタートしています。この25年を振り返り、これから国際政治経済学部をどのように発展させていくかを考えるために、これらの講演会とシンポジウムが企画されました。



金鍾泌 大韓民国 元国務総理

11月13日には、総合研究所ビル12階大会議室にて、金鍾泌大韓民国元国務総理の名誉博士号(国際政治学)授与式が執り行われ、式に引き続き、「日韓関係と東アジアの将来」と題する金氏による講演会が開催されました。

金鍾泌氏は、戦後の日韓関係の基礎を築き、韓国政治の民主化に大きな貢献をされました。今日の韓国があるのは日本の協力によるところが大きいと、日韓相互協力の必要性を強調され、日韓関係の重要性を訴

えられました。式典には中曽根康弘、森喜朗両元首相や扇千景参議院元議長はじめ多くの方々にご出席いただきました。

12月1日にガウチャー記念礼拝堂で国際政治経済学部創設25周年記念式典が開催され、引き続き中曽根康弘元首相による「世界における日本の役割」と題する講演会を催しました。先に述べた金鍾泌氏が中曽根氏を現代日本の「元老」と呼ばれるだけあって、言葉のひとつひとつに重みを感じられました。幼少の頃の体験に始まり、最近の憲法論議や大連立問題に至る壮大なテーマについて約1時間にわたって堂々と論じられ、約300人の聴衆を惹きつけられました。日本を国際政治から取り残されないようにするために大連立が必要だと言われた点については、その日のNHKニュースでも報じられました。最後に地球環境問題の解決に日本外交が世界をリードすべきだと新しい外交のヴィジョンを示されました。



中曽根 康弘 元首相

12月14日には、総合研究所ビル12階大会議室を会場に、H.リチャードソン駐日EU大使ら

を招いて国際シンポジウム「拡大EUと東アジアの地域統合」が開催されました。この会議は、安定の度を増した



H.リチャードソン駐日EU大使

EUと、国家間にさまざまな問題を抱える東アジアとを比較し、これからの東アジアが進むべき道を探ろうとしたものです。

国際政治経済学部の創設25周年の記念式典とこれらの講演会や会議を開催できたことは、青山学院と本学院に関係する多くの方々のご協力とご支援のたまものです。25周年をひとつの区切りとして、青山学院に学ぶ者の目と耳と心が世界に向けられるよう国際政治経済学部の一層の向上をはかってまいります。



創設25周年記念式典・講演

理工学部重里 有三教授の研究室が、平成19年度NEDO委託事業で、企業や他大学とともに有機ELの研究開発に取り組みます！



理工学部化学・生命科学科
重里 有三 教授

独立行政法人新 エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) では、平成19年度の委託事業「有機発光機構を用いた高効率照明技術の開発」について、松下電工 (株)、出光興産 (株)、タツモ (株) の3社への委託を決定。また共同研究先として、山形大学大学院理工学研究科の城戸淳二教授、東京大学大学院工学系研究科の山口由岐夫教授、そして本学理工学部化学・生命科学科の重里有三教授が名を連ねました。

このプロジェクトに関して重里教授にお聞きしました。

本事業 では、液晶に代わる次世代ディスプレイとして開発が進められている「有機EL発光デバイス」を、その高輝度を生かした照明器具として活用し、実用化することを目的としています。白熱電球や蛍光灯などの現状の光源と比べて高効率で、環境に優しい新光源となる可能性を秘めており、平成22年3月までの実用化が目標です。

企業3社 が、照明器具メーカー、材料メーカー、装置メーカーと、それぞれの役割がしっかり分かれているのと同様に、大学の3研究所に関しても、それぞれの特色がはっきりしています。山形大学の城戸教授は、高輝度の

有機EL材料の研究開発の権威であり、今回の有機材料を照明に生かすことのきっかけを作ったとも言える方です。一方、東京大学の山口教授は「化学システム工学」が御専門であり、その観点から本事業に参加されます。そして重里研究室では、「無機薄膜の成膜プロセスと物性・構造の高度な制御法の開発」による事業への貢献を期待されています。

実 は今回の“主役”である有機発光材料ですが、その特長を發揮するためには、無機の薄膜による制御が必要となります。いわば有機EL発光デバイスは、有機物質と無機物質とが複合した“ハイブリッドデバイス”なのです。私たちは、その「無機薄膜」の部分を中心に研究に取り組んでいきます。これらの研究開発を進めるに当たり、今回はとても高レベルでバランスのとれた企業と大学の連携が実現できるだろうと考えています。

また、このような共同研究の場合は、大学における教育効果としても大きな意味があります。実際に企業とやり取りする現場に、大学院生達も立ち会える機会が自然と生まれてくるからです。日本の最先端とも呼べる“研究プロジェクト”を間近に体感することで、学生たちが将来の科学技術に対するイメージを具体的に持つことができるようになることは、学生にとっても、そして私達教員にとっても幸せなことだと思います。

産学連携プロジェクトの成果が次々と形に！ “生きた研究の場”を提供し続ける、理工学部橋本 修研究室



理工学部電気電子工学科
橋本 修 教授

理工学部橋本修教授の研究室では、多数の企業との産学連携プロジェクトが同時進行しています。この夏場にもいくつかのプロジェクトが実を結び、その研究成果が新聞等で発表されました。電波吸収体に関する研究2件と、電磁波応用に関する研究1件について、橋本教授にお聞きしました。

●**軽量でコストパフォーマンスに優れた電波吸収体を開発**

(松山毛織との産学連携・2007年7月)

松山毛織 (株) は、もとは衣料メーカーですが、新規事業として電磁波シールド材の開発などを展開しています。先方より「炭素繊維」を材料とした電波吸収体が作れないかのご提案があり、研究を重ねた結果、裏にアルミニウムを張った発泡スチロールの表面に、テニスラケットのガットのように炭素繊維を張り巡らせることにより、軽量で薄く、コストパフォーマンスにも優れた電波吸収体を実現できました。また、張り巡らせる炭素繊維の間隔を変えることで、吸収する電波の周波数帯域を調整することも可能です。素材が繊維のため屋外での活用は難しいのですが、例えば携帯電話などの電子機器用の実験室などに「手軽に設置できる電波吸収材」としてアピールできるほか、テントのような簡易的な実験室での利用にも適しているなど、汎用性は広いと思われます。(フジサンケイビジネスアイ 2007年7月18日 (水))

●**食品工場の加熱殺菌用の電子レンジの電磁波に円偏波を応用**

(大和製罐との産学連携・2007年8月)

容器製造プラントメーカーの大和製罐 (株) と共同で、食品工場などの加熱殺菌用の電子レンジにおいて、温度ムラを低減させるための研究を続けています。食品業界で電磁波は、乾燥・解凍・加熱など、さまざまな用途に活用されていますが、今回のテーマは殺菌。例えば豆腐などでは、電

磁波を照射することで中身の殺菌が行われています。通常は直線偏波という電界方向の一定な電磁波を照射しますが、それではどうしても容器の中身に温度のムラができてしまい、均一な殺菌は難しい状況でした。そこで、通信や放送用に使われている電界方向が円を描くように電磁波が進む「円偏波」を応用することに思い当たったのです。シミュレーション測定の結果、直線偏波と比べて、温度ムラを約2割軽減することを実現しました。今後は、より実用化に向けた開発を進めていく予定です。

(フジサンケイビジネスアイ 2007年8月17日 (金))

●**多層CNTと樹脂の複合材で、新型の軽量電波吸収体を開発**

(保土谷化学工業との産学連携・2007年9月)

保土谷化学工業と三井物産の合弁会社であるナノカーボンテクノロジーが、新しい多層CNT (カーボンナノチューブ) を開発し、それを電波吸収体として活用できないかとお話をいただいたのが、共同研究を進めるきっかけでした。電波吸収体にカーボンを使う場合、従来のカーボン粉であれば約20～30%の含有が必要。しかし、実験を重ねた結果、新しい多層CNTでは約0.2～0.3%の含有で、従来と同様の導電性や電磁シールド効果が確認できました。この多層CNTを使えば、これまで主流であったフェライトの電波吸収体と比べ、重量を1/4以下に軽量化することが可能です。今後は、ETCや携帯電話などの固定無線アクセス通信などで実用化させるために、より幅広い周波数帯への対応を進めていきます。

(日刊工業新聞 2007年9月4日 (火))

橋本研究室が、多彩な研究に取り組む背景には、「学生たちに少しでも“生きた研究”を体感させたい」との橋本教授の思いが込められています。学生が取り組む研究対象に応じて、実際に製品化を進める企業との共同研究を体験できたならば、その学生が得られるものは計りれません。企業と橋本教授だけでなく、その周りに学生や院生が関わっている姿こそ、真の産学連携の意義なのです。

第10回公共選択学会「学生の集い」において、 経済学部 中村ゼミの学生が最優秀賞を受賞

2007年11月10日(土)・11日(日)の2日間、第10回公共選択学会「学生の集い」が、埼玉大学にて開催されました。この「学生の集い」は、毎年異なったテーマが大学生向けに提示され、そのテーマに沿った論文をまとめたうえで、実際にプレゼンテーション等を行う「学会形式」が特色。参加各大学の教員が審査員となり、論文とプレゼンテーションの内容を総合的に評価し、最優秀賞などの賞が決められます。

毎年、同一イベントに参加している中村まづるゼミでは、今年も3年生4名で編成された2チーム(Mパート、Nパート)が出場。そして「立憲的契約としての憲法改正はどのようにあるべきか。」をテーマとした3年生の部において、Mパートが見事に最優秀賞を受賞したのです。また、Nパートも参加学生からの投票で決まるプレゼンテーション投票で1位となり、2チームともに高い評価を得ることができました。

毎年「学生の集い」に参加される意義を中村教授にお聞きするとともに、優秀な成績をあげた学生たちの声もお届けします。



経済学部経済学科
中村 まづる 教授

最近は一般的に「こうしなさい」と指示がないと行動できない学生が多いと言われます。自分たちで「何かを見つけよう」とする積極性に欠け、せっかく勉強は出来るのに、その上やその先を目指そうとしないのです。私が指導する経済政策論の分野は、物事を理論的に考え、政策提言に結び付けるという流れが基本となりますが、そこで導き出される答えは決してひとつではありません。その政策を実現するためには、論理的な“説得”が必要。相手を説得できなければ、いかに優れた政策でも、ただの“独りよがり”でしかないのです。

同じように、どんな大作の論文であっても、世間に発表し、評価され、認められて初めて、価値のあるものになります。それはもちろん簡単なことではありません。そんな経験を学生たちに体験してもらいたいと思い、私はゼミ生たちに「学生の集い」への参加を勧めています。

人に評価されることの“喜び”と“怖さ”を身を持って知ることが出来るはずですよ。

今回も7月頃から取り組みが始まり、途中何度もハラハラさせられる場面がありました(笑)。しかし最終的には、なかなかの論文に仕上がりに、しかも大きな評価を受けたわけですから学生たちには自信を持ってもらいたいです。また、この大きな経験の意義を後輩たちにも伝えていってほしいと思います。

最優秀賞 Mパート

西川 美希さん
日高 耕太郎君
山田 大貴君
村井 基恵君



左から西川さん、日高君、山田君、村井君

自己主張の激しい4人が集まり、最初から最後まで論文を作っては壊し、作っては壊しの連続。11月の本番の前に、論文は10月初旬に提出するのですが、締切2週間前に完成した論文に納得できず、その段階からすべてやり直したこともありました。4人全員で産みの苦しみを味わい、本当に苦労しただけに、受賞については感無量です。まさか最優秀賞をいただけるとは思っていませんでしたが、これも中村先生や4年生の先輩方、それにNパートも含めた仲間のおかげだと思います。

プレゼンテーション 投票1位 Nパート

野本 拓見君
古賀 健太君
青木 克裕君
勝浦 大策君



左から野本君、古賀君、青木君、勝浦君

Mパートとは対照的に、こちらはチームを組んだ段階から、それぞれの役割分担ができていた感じです。論文は4人で手分けして書き、それを野本が1本にまとめ、古賀が検証。野本と古賀間でそれを繰り返したうえで、青木がパワーポイントで資料を作成し、本番では勝浦が発表する、との流れでした。残念ながら最優秀賞には届きませんでしたが、一緒に苦労したMパートが受賞して良かったと思いますし、自分たちでも納得のいく内容をプレゼンテーションできたとの実感があるので満足です。

韓国大学生訪日研修団が来校し、本学学生と交流



国際交流センター副所長
文学部英米文学科
吉波 弘 教授

2007年11月8日(木)に韓国大学生訪日研修団が本学を訪れ、学生との交流会やキャンパスツアーを通じて、日韓の相互理解を深めました。

交流会はお互いの学生が5つのグループに分かれ、学生有志の司会進行(日本語司会と韓国語司会の2人)でスタートし、杉浦勢之副学長(当時)と韓国大学生訪日研修団・黄仁泰団長の挨拶に続いて記念品贈呈が行われました。次の日韓三択クイズでは、グループ対抗で8問中何問正解できるかを競いあい、正解発表では悲喜こもごもの声が上がりに、会場はヒートアップ。すっかり打ち解けた楽しい雰囲気の中、それぞれの学生代表がスピーチを行いました。メインイベントであるグルー

プディスカッションでは、「日韓の少子化についてどう考えるか」「100万円あったら何に使う?」など、硬軟織り交ぜたテーマの中からくじ引きでテーマを決め、どのグループもたいへん盛り上がりしていました。その後キャンパスツアーを経てコーディネーターの宋連玉教授(経営学部)、吉波弘教授(国際交流センター副所長)が閉会の言葉を述べ、最後はガウチャー記念礼拝堂前で記念写真撮影。終了予定時間を過ぎてても別れを惜しむ姿が見られ、成功裏に幕を閉じました。訪日団の黄団長からも、「こんなに学生同士が親しく交流できたのは青山学院大学だけ。本当にありがとうございます」とのお礼の言葉をいただきました。日本と韓国の両国で、こうした経験が将来に生きてくると思っています。



魅せる! 青学スポーツ



2007年度の秋季も、体育会各団体が大活躍。

厳しい練習で培った技術やタフな精神力、チームワークの良さを武器に、魅力あるプレーを繰り広げ、華々しい成績を収めています。今回は8つの団体にお話をうかがい、その魅力に迫りました。



硬式野球部小林 賢司投手、小窪 哲也内野手がドラフト指名を受け 記者会見でプロでの活躍を宣言



左から小窪 哲也君、小林 賢司君

2007年11月19日(月)にプロ野球の新人選択会議(ドラフト会議)が開かれ、硬式野球部小林賢司投手(文学部)がオリックス・バファローズから、小窪哲也内野手(経済学部)が広島東洋カープからそれぞれ指名を受けました。ドラフト当日、相模原キャンパスB棟9階ビューラウンジで記者会見が行われました。会見後、オリックス、広島両チームのスカウトから指名挨拶をうけて、小林君、小窪君はそれぞれ笑顔で握手を交わしました。オリックスの中川スカウト、広島の高山スカウトはともに本学硬式野球部OBであり、小林君、小窪君とは先輩・後輩の間柄。プロで活躍できる逸材として評価しており、期待の高さがうかがえました。

2007年11月19日(月)にプロ野球の新人選択会議(ドラフト会議)が開かれ、硬式野球部小林賢司投手(文学部)がオリックス・バファローズから、小窪哲也内野手(経済学部)が広島東洋カープからそれぞれ指名を受けました。

小林賢司投手(オリックス・バファローズより指名)

プロ野球選手になりたいという夢は、高校2年のときから意識していたことなので、高い評価をいただきとてもうれしいです。新しい環境で頑張り、監督やチームの期待に応えたいと思います。東都リーグでのぎを削ったライバルはもちろん、今年のドラフトで指名された人たちのだれにも負けたくありません。自分の持ち味である直球中心の投球スタイルはそのままに、技術を高め、先発投手の一員として活躍したいです。

小窪哲也内野手(広島東洋カープより指名)

小さいころからの夢が叶いとてもうれしいです。硬式野球部で厳しい戦いをしてきた経験を生かして、どうしたら勝てるか、どうしたら貢献できるかを常に考えたプレーをしたい。貪欲にポジションを狙い、チームに欠かせない存在になりたいと思います。大学時代に目標としていた100本安打が達成できなかった悔しさをプロの舞台上で晴らし、2000本安打目指して頑張ります。そのためにも、1年間を通してプレーするための強い体づくりをしていきます。



第59回全日本学生バスケットボール選手権大会優勝 男子バスケットボール部が、7年ぶり2度目の日本一に!

男子バスケットボール部主将 広瀬 健太君(国際政治経済学部4年)

学生生活最後の年に、念願だった全日本学生選手権で優勝できて感無量です。主将として迎えた最初の公式戦、春の関東大学選手権では1回戦で敗退し、「このままではマズい!」と、さすがに焦りました。でも今にして思うと、あのときに悔しい思いをしたからこそ、その後の厳しい練習にも、選手全員が弱音を吐くことなく耐えられたのだと思います。秋の関東大学リーグ戦に優勝したときには、全日本でも勝るという確かな感触を掴みましたが、主将としてチームに気の緩みが出ないよう、あえて厳しく気を引き締めました。これも勝負事の怖さを春に味わった経験が生きたのだと思います。

結果として優勝し、さらに私がMVPに選ばれました。でも長谷川監督も常におっしゃいますが、今年のチームは、絶対的なエースがいるわけではなく、選手全員が走って、守って、攻められるオールラウンドプレーヤーであることが大きな特色なので、控えのメンバーも含めた全員で勝ち取った優勝だったと自信を持って言えます。自分1人

が大活躍してチームが2位や3位になるより、自分は目立たなくてもチームが勝てば心から喜べる、そんなメンバーが揃いました。それだけに学生日本一の喜びをみんなで分かち合えたことが何よりもうれしいです。

7年前の優勝時は、まだ中学生でしたが、「青学って強いんだ」と、思ったことを覚えています。先輩方が残してくれた伝統を受け継ぎながらも、その年ごとのチームカラーを選手個々が理解し、全員で戦うことが大切です。後輩たちも一生懸命に練習に取り組むことから新しいカラーを見つけ出し、来年も今年以上に強いチームを築いてもらいたいと思います。





女子卓球部が全日本大学対抗卓球選手権大会で 14年ぶり9回目の優勝!

女子卓球部主将 阿部 恵さん(文学部4年)

春季リーグでの惨敗をきっかけに「全員で悔いのないよう頑張っていこう」という意識がチームに生まれ、何度も話し合いの場を持って部員の意識改革を進めてきました。こうしたチーム全員の姿勢が14年ぶりのインカレ優勝をもぎ取ったのだと思います。

インカレでは、決勝は強豪淑徳大学との対決。私がシングルスで勝てば優勝決定という大一番となりましたが、不思議と冷静でした。何よりベンチのみんなの顔を見れば「大丈夫、いける」と思えたのです。最後の1本をとり優勝が決まった瞬間…大粒の涙がこぼれました。ベンチに戻りみんなと泣きながら抱き合いました。「みんなで頑張ったんだ」という思いがこのような感動をよんだのだと思います。部員

全員でつかんだ最高にうれしい勝利。監督をはじめ、OBの方々やたくさんの方々に支えられたような結果を残すことができました。

私たち4年生は卒業ですが、結束の固い後輩たちが来シーズンも頑張ってくれていると思っています。

スポーツが素晴らしいのは誰にでも可能性があるところ。ベストを尽くして、ぜひインカレ2連覇を目指してほしいですね。



(写真提供:卓球王国)



女子バドミントン部が 4年ぶりに全勝優勝で秋季リーグを制覇!

女子バドミントン部主将 馬上 愛実さん(経済学部4年)



(写真提供:浅井和巳氏[校友])

4戦全勝で早稲田大学との頂上決戦を迎えたときは、優勝へのプレッシャーを感じるよりも「やっとここまでできた」という思いの方が強かったですね。これまで積み重ねてきた練習も自信となって、

みんな平常心でコートに立つことができました。早大にリーチをかけられ、あとがなくなった第2ダブルスは私と三輪(経営学部4年)のペア。勝負は第3セットにもつれこみ、マッチポイントを先にとられたのですが、不思議とあせりはありませんでした。落ち着いて「次、次!」とお互いの声をかけ合い、10回のマッチポイントを繰り返した末に接戦を制し、いよいよ大一番は最終シングルス(文学部4年)の神(文学部4年)へ。精神面でもぐんと成長した彼女は、今まで一度も勝ったことのない相手に堂々たるプレーで勝利! 念願のリーグ優勝を果たすことができました。

今回の試合にはとても多くの方が応援に来てくださり、試合中の大声援は本当に私たちのパワーとなりました。優勝が決定的なときにすごく喜んでくださっている姿を見て、私たちもさらにうれしくなりました。



栄えある日本拳法第1回東日本大学女子選手権大会において、 女子拳法部が全勝優勝!

女子拳法部 田辺 舞子さん(文学部4年)

団体戦は3人1チームで、先鋒・中堅・大将同士がそれぞれ戦い、2勝したチームが勝ち。我が女子拳法部は、選手が私と1年生2人の3人だけで、1年生は競技歴半年で大会出場も初めて、段級位もなし…正直「優勝」は考えてもいませんでした。

有段者がそろった一番の強敵中央大学と初戦で当たり、「勝ち目はないかな」と思っていました。ところが先鋒の外崎(法学部)が予想外の勝利! 中堅の細尾(本学院女子短期大学)は負けましたが、これで1-1。こうなったら私が負けるわけにはいきません。絶対に勝とうと必死に戦い、勝利をもぎ取りました。この“信じられない勝利”がみんなの自信となり、チームに勢いをつけ、終わってみれば全勝優勝。

外崎は勝ちを重ねるにつれて精神面でも成長していくのが分かったし、なかなか勝てなかった細尾も、最後の試合では負けこそすれ1本を取ることができました。試合を通じて2人とも色々なことを学んでくれて、拳句に優勝まで…最初から「無理だ」とあきらめずにチャレンジすることの大切さにも、改めて気付いた大会でした。





チアリーディング部 REESES、 2007 JAPAN CUPチアリーディング日本選手権大会において、 規定1位3連覇の快挙&創部史上最高の総合4位獲得

チアリーディング部 REESES 主将 大淵 香菜子さん(文学部3年)

昨年のこの大会では、準決勝で完璧と言えるような演技ができたのに、決勝では雰囲気にもまれてミス連続。大きく順位を下げてしまいました。そこで今年は、何があっても乗り越えられる精神的に強いチームにしていくことを目標に、「みんなが自信を持って大会に臨める演技をする」「お客様に楽しんでもらえる演技をする」「青学らしいクリーンな演技をする」ことを心がけて、厳しくも楽しい練習を重ねました。大会に出場するときは毎回テーマを決めるのですが、Aチームの今年のテーマは『感』。「感動、感謝、仲間を感じて演技をする」を合い言葉に、規定1位、総合7位以上を目指して臨みました。とこ

ろが昨年とは逆に準決勝でミスが出て、決勝に出られるかどうか心配したもののなんとかセーフ。でもこの失敗が決勝への強い思いにつながり、「あれだけ練習したのだから大丈夫!」と、みんなの気持ちがひとつになって力を発揮できたので、過去最高の総合4位となることができました。1年間の積み重ねがこのような結果になり、本当にうれしいです。



居合道部の齋藤 太嘉志君が 第40回東日本学生居合道大会個人戦で2連覇達成!

居合道部 齋藤 太嘉志君(法学部4年)



僕は青山学院高等部出身なので、高校3年生のときに掲示板の「居合道部全日本大会優勝!」のニュースを見て、居合道部を見学。練習風景を最初に見たときは、ひとりで刀を振り回している姿に「?」でしたが、仮想敵を相手に刀を抜いて戦い、刀を納めるまでを演武すると説明を受け、

面白そうだなと思い入部しました。

今回の大会は2連覇がかかっていたものの、昨年の全日本大会で初戦(シードのため実際は2回戦)で負けてしまい、その雪辱を晴らすべく確実にベスト8に入って全日本大会に出場しようと思っていたので、優勝は二の次でした。しかし、順調に勝ち進むうちにやはり“優勝”への思いは強くなり、決勝戦ではミスをしてしまったけれど、判定を待つ間「いいからこっちに旗を上げて!」と心の中で叫んでいました。3名の審判員の旗の提示による多数決で勝者が決まるのですが、並んで演武するので相手がどれだけうまくできたのかがまったくわからないため、旗が上がるまで勝負の予想がつかないのです。優勝が決まった瞬間は、本当にホッとしました。4年なので引退となりますが、今後は後輩の指導にもあたっていきたいと思っています。



女子硬式庭球部が2部リーグ全勝優勝! 1部リーグ復帰は逃すも、来年への手応えをつかむ

女子硬式庭球部主将 佐伯 麻美さん(文学部4年)
主務 島路 幸恵さん(法学部4年)

1部リーグ昇格に向け、「チームワークと体力の向上」を目指し練習メニューを一新。後輩たちからは厳しすぎるとの声もありましたが、その度に「これだけやれば絶対に力になる、勝てる」という意識付けを徹底するとともに、部員の立場を明確にすることも心がけました。選手に選ばれた部員には、試合に出られない部員のためにも1球1球を大切にしようキャプテンの佐伯が指導。サポートに回る部員は主務の島路がまとめ、選手を応援する大切さを説きました。それぞれが自分の役割をしっかりと認識することで、チームワークも格段に向上。2部リーグで全勝優勝できたのも、チームワークの勝利だった

と思っています。

入替戦当日は50人以上の大応援団で本当に心強かったのですが、初めてのコートということもあり、プレッシャーにも負けて涙を飲む結果に…。しかし、この1年間本当に頑張ってきたので、悔いはありません。最終目標達成は後輩に託します。チームワークも格段によくなっているし、取れないボールがないというほどコートでは走っていました。きっと来年は1部昇格を果たしてくれるでしょう。



理工学部化学・生命科学科 福岡 伸一教授が、 第29回「サントリー学芸賞」を受賞

理工学部化学・生命科学科福岡伸一教授が、第29回「サントリー学芸賞」を受賞しました。この賞は、広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を、著作を通じて行った個人に対し贈られるもので、福岡教授の著書『生物と無生物のあいだ』（2007年5月刊行講談社新書）は、「政治・経済」「芸術・文学」「社会・風俗」「思想・歴史」の4部門のうち、「社会・風俗」部門での受賞となりました。

作品では、「生命とは何か」という問いに対する著者の考えが、著者自身の体験談や天才科学者たちの思考の紹介を交えながら述べられています。

●福岡教授の受賞のことは

この本を書くにあたって、まず考えたことは、教科書はなぜつまらないか、ということです。教科書がつまらない理由、それはすべての知識を事後的に整理しているからです。そして、なぜそのとき、その知識が求められたのかという切実さが記述されておらず、誰がどのようにしてその発見に到達したのかという物語がすっかり漂白されてしまっているからです。

そこで私は、この本を新しいスタイルで書いてみようと思い立ちました。自分が生物学を理解してきたプロセスのなかで気がついたこと



を体験として語ればよい、そのいちいちを、自分の内部の時間の流れとして記述すればよいのだ、そう思いついたのです。

その試みは、もちろん本書では、実験的なものにとどまっています。しかし、私にできることはそれを継続していくことだけなのということも分かったのです。

このたびは、栄えあるサントリー学芸賞をいただいたこと、「理系の本は売れない」「売れた本は賞がとれない」といった出版界のジンクスを破り、多くの読者に支持していただいたことを、たいへん喜ばしく思っております。ありがとうございました。

「新司法試験」で本学法科大学院から合格者7名輩出!

2007年9月、「新司法試験」の合格者が発表されました。今回、本学大学院法務研究科（法科大学院）からは、2年短縮コース1名（2005年度修了生）、3年標準コース6名の計7名が合格。そのひとりである3年標準コース修了生の高橋 朋さんにお話をうかがいました。



法務研究科3年標準コース修了生
高橋 朋さん

●法律に興味をもったきっかけは何ですか。

世間を騒がせた少年事件の犯人と同年だった私は、「もし自分が裁かれる立場だったらどのように思うか」と考えはじめ、いつしか“法律”の奥深さ、面白さの虜に……。よく法律は「血も涙もない」と言われますが、実際には人間同士のいさかいやもつれを解決するために使用されます。そのクールさと人間臭さの2面性に興味を惹かれていきました。

●青学の法科大学院を志望された理由を教えてください。

志望の最大の理由は、当時唯一「立法学」が設置されていた法科大学院だったから。大学の家族法ゼミで、家事事件やDVについて勉強するうちに法整備の重要性を痛感し、立法学をぜひ学びたいと思ったのです。母と姉が青学OGなので馴染みもあったし「青学ならばしっかりとした勉強ができる」という安心感がありました。

実際に入学してみると、さまざまな年齢や境遇の方がいらして驚きました。ダムの建設現場で働いていた人、お子さんがいらっしゃる人……小さいけれど、立派なひとつの社会を形成していましたね。新卒の私は今まで周囲にいるのは似たような境遇の同年代の友人ばかりだったので、幅広い分野の方たちと、時に価値観の相違にとまどいながらも、同じ目標に向かって学び、高め合っていけることは、と

ても素晴らしく面白い経験でした。解決策はひとつではない、その解決に至る過程もひとつではない。そうした大切なことを、この「小さな社会」の中で色々学びました。

●法科大学院での授業や施設についてはいかがでしたか。

実務家教員の授業はとても刺激的で、カルチャーショックを受けました。教科書には出てこない話が次から次へと飛び出てきて、やはり学部の勉強とは違いますね。青学には元裁判官、元検事、現役弁護士の先生方がいて、それぞれの立場から異なった切り口で物事の見方を教えてください。物事のあるべき姿はひとつではない」ということを実感できました。

特に立法を学びたくて入学しましたが、勉強を進めていくにつれて民法や刑法にも関心が広がり、今はすべてに興味深いですね。

施設面では、青学の立地の良さと自習室の充実が魅力。毎日夜11時30分まで開いている自習室は、自分専用の机があるので落ち着いて勉強できました。ローライブラリーの資料も豊富で、大きな本屋もすぐ近くにあり。社会人入試で入学した方は、奨学金が充実してうれしいとおっしゃっていました。

●目指す法曹像を教えてください。

青学では3年間の授業を通して、法曹としての考え方から立ち居振る舞いまで、たくさんを教わり、また影響を受けました。先ほど言いましたが今はすべてに興味がある状態なので、分野を限定せずに修習に臨み、将来を決めていきたい。青学の先生方のように、使命感を持って活躍できる法曹を目指して頑張ります。

文学部日本文学科主催

「第4回国際シンポジウム—文学という毒—」を開催

文学部 日本文学科主催の「第4回国際シンポジウム」が、9月23日(日)に総研ビル12階を会場として開催されました。イベントは、「文学という毒」をテーマに、第1部が武藤元昭学長(当時)と本学客員教授でもある歌舞伎の市川團十郎氏との対談、第2部が本学教授を含む6名の識者によるシンポジウムという二部構成。一見、重たいテーマの「毒」ですが、その暗いイメージとは異なり、時折笑いも起こるリラックスした雰囲気の中でイベントは進行しました。

第1部 では、サブテーマ「歌舞伎の毒と悪をめぐって」に沿って、対談が進められました。「歌舞伎のストーリーの土台は“勸善懲悪”



左：武藤 元昭 学長(当時) 右：市川 團十郎氏

であり、“体制(幕府)”と“個人(庶民)”との葛藤が根本にある」との市川氏の解説に対し、武藤学長(当時)からも「江戸の時代を強烈に諷刺した歌舞伎は、庶民にとって“良薬”であっても、幕府にとっては“毒”になりえた」とのお話があるなど、白熱した議論が展開。江戸時代はもとより、現代においても歌舞伎の担う役割の大きさを再認識させられる内容でした。時には話が脱線し、初代團十郎の知られざるエピソードが披露されるなど、市川氏のサービス精神に、満員の観客席も大満足の対談となりました。

第2部 は、富山太佳夫教授(本学英米文学科)、マイケル・ガーディナー氏(ウォリック大学)、高山宏氏(首都大学東京教授)、長島弘明氏(東京大学大学院教授)、大上正美教授(本学日本文学科)、篠原進教授(本学日本文学科・司会)の6名によるシンポジウムでした。まず、各人から「文学と毒」に関する基調報告が行われた後、6名による意見交換(シンポジウム)を実施。古典から英文学まで、さまざまなジャンルのスペシャリストが集い、さらには、それぞれの「毒」に対する捉え方も、ユーモア、政治諷刺、奇想、パロックスなど、全く異なるため、大変興味深い話を数多くお聞きすることができました。「毒」という、これまでとは違った視点から「文学」を考えさせられる貴重なイベントでした。

読書教養講座 公開授業

小久保 裕紀氏(福岡ソフトバンクホークス)の講演会「一瞬に生きる」を開催

2007年12月4日(火)、本学卒業生でもある福岡ソフトバンクホークスの小久保裕紀選手を講師として招いた講演会が、ガウチャー記念礼拝堂で開催されました。この講演会は、国際政治経済学部の嶋田順好教授が担当するフレッシュヤーズ・セミナー「読書の喜びを見出すためのゼミ～食わず嫌いを克服しよう～」の公開授業として一般の方々にも開放したもので、同時に、読売新聞社が各大学と協力して開講している「読書教養講座」とも提携し、実現しました。

講師を務めた小久保選手は、本学から1993年のドラフトで当時の福岡ダイエーホークスに入団し、早くからチームの中心選手として活躍。2003年11月にトレードで巨人に移籍した後、2006年11月にはFA宣言し、2007年のシーズンは再びホークスでプレーしました。これまでホームラン王、打点王、ゴールデングラブ賞など、数々の賞を手にした小久保選手ですが、その裏で、多くの怪我と闘ってきました。2003年に1年間を棒に振るような大怪我をしたときでも、常に前向きに考え、一心不乱にリハビリに取り組み続けた強靱な精神力の背景に、講演会のテーマであり、また小久保選手の座右の銘でもある「一瞬に生きる」という言葉が存在することが語られました。

「一瞬に生きる」は、メンタルトレーニングのために訪れた修行の場で出会った言葉で、自分が生きている一瞬、一瞬に対して、

常に全精力を傾けることの大切さを説いたもの。「野球に置き換えれば一打席、一打席にどれだけ集中できるか。準備不足や集中力の欠如で打てずに後悔した場合は、次の打席にも引きずってしまふ。自分が出来ることはすべてやったと思えば、結果はどうであれ後悔はしないはず」と、小久保選手は話します。



また、読書家である一面も披露。ビジネス書、特に自己啓発ものをよく読むそうで、「大企業の社長など、やはり人生の成功者は、皆、よく本を読んでいる」と、学生

たちにも読書の効用を力説していました。その他にも、野球を始めたきっかけ、大学時代の思い出、プロで一番印象に残るホームランなど、数々のエピソードを交えながらの講演は、あっという間に時間が過ぎていきました。

また講演後には、同じく本学の卒業生で、スポーツをメインとしたノンフィクション作品で活躍中の作家、澤宮優氏との対談も開催。スポーツでも特に野球に関する作品が多い澤宮氏は、小久保選手に関する情報も豊富で、王監督とのエピソードや多くの興味深い話を巧みに引き出し、聴講者を楽しませてくれました。

大学院 国際マネジメント研究科主催 「青山MBA特別フォーラム—ビジネススクールで何を学ぶか?—」を開催

10月20日(土)に大学院国際マネジメント研究科主催の「青山MBA特別フォーラム」が、アイビーホール青学会館(3階ナルドの間)で開催されました。“ビジネススクールで何を学ぶか?”をテーマに、基調講演とパネル・ディスカッションとの二部構成でイベントは進行。定員150名の事前予約に対し、定員を超える数の問い合わせがあったことから、ビジネススクールやMBAに対する、世間の関心の高さを知ることができます。

フォーラムは、国際マネジメント研究科長高橋文郎教授の挨拶で開会。第1部の基調講演には、国際マネジメント研究科の飯塚敏晃教授と、株式会社エイテックマヒラ代表取締役の熊平美香氏が登場しました。

まず壇上に立った飯塚教授は「日本のビジネススクール、アメリカのビジネススクール」のテーマで講演。日米両方のビジネススクールで教鞭を執られた経験から、日本とアメリカにおけるビジネススクールの現状や在り



方を比較し、それぞれのメリット・デメリットを分かりやすく説明されました。そのうえで、青学の国際マネジメント研究科が、MBAの本場アメリカと比べても遜色のない学びの環境を提供していることを力強く宣言し、講演を締めくくられました。

続いて、各種企業へのコンサルティング業務を中心に展開されている熊平氏が壇上に立ち、「ビジネススクールはキャリア形成にどのように役立つか?」をテーマに、自身の体験談を披露。金庫の製造メーカーで知られるクマヒラを家業に持つ環境に生まれ、実際社員として入社しながらも、業界の将来に不安を抱き、自ら「経営」を学びたいとハーバード大学のビジネススクール行きを決意された経緯や、その経験から得たことが現在も大きな力となっていることなど、興味深い話を伝えていただきました。

第2部のパネル・ディスカッションには、国際マネジメント研究科の松浦祥子教授司会のもと、4名の同研究科MBAコース修了生がパネリストとして登場。MBAを取得することの意義、仕事と学問の両立の苦労など、それぞれの経験から得た貴重な意見が、活発に交換されました。途中、時間にゆとりが生まれ、会場からの質問にも回答。ビジネススクールやMBAの現状について知りたいと会場に集まった方々にとって、有意義なイベントとなったはずです。



株式会社エイテックマヒラ
代表取締役
熊平 美香氏



国際マネジメント研究科
飯塚 敏晃教授

2007年度 青山学院学術褒賞 受賞者決定

文学部日本文学科 佐藤 泉 准教授
『国語教科書の戦後史』

文学部心理学科 小俣 和義 准教授
『親子面接のすすめ方 子どもと親をつなぐ心理臨床』

経済学部 堀 真理子 教授
『ベケット巡礼』

国際政治経済学部国際政治学科 山本 吉宣 教授
『「帝国」の国際政治学—冷戦後の国際システムとアメリカ』

理工学部物理・数理学科 古川 信夫 教授
フラストレートした強相関電子系における特異な秩序形成の研究

理工学部化学・生命科学科 福岡 伸一 教授
分子生物学者として斬新な視点から生命科学を捉え、一般向け科学書にまとめたことに対して

News Index 2007.10~12

2007年10月上旬~12月下旬までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

07年10月

- 国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所との協定による難民を対象とする推薦入学試験について
- 「新潟県中越沖地震」義援金活動報告
- 2008年4月、大学院経済学研究所「公共・地域マネジメント専攻」の設置が了承されました
- 漕艇部の大槻寿晃さん(法・2年)が第30回東日本新人選手権競漕大会男子シングルスカルで優勝
- 理工学部 秋光純教授が、「平成19年度日本結晶学会西川賞」を受賞
- 渡邊大輔さん(理・院博士前1年)が、第1回プラスマエレクトロニクスインキュベーションホールにおいて、優秀ポスター賞を受賞
- 金子真実さん(国際政治経済学部4年)の論文が「地球温暖化にどう立ち向かうか」の「環境」懸賞論文で優秀賞を受賞
- 本学 男子バスケットボール部が第83回 関東大学バスケットボールリーグ戦 1部リーグで優勝
- 本学レスリング部の板倉選手が文部科学大臣杯全日本大学グレコローマン選手権の66kg級で優勝、団体戦は第6位入賞
- 本学女子卓球部、阿部・山崎選手ペアが、第74回全日本学生選手権大会、女子ダブルスで優勝、女子シングルスで、大槻選手が第3位
- 2008年4月開設予定「社会情報学研究所社会情報学専攻」の設置が了承されました
- 「青山学院スタイル」に、理工学部化学・生命科学科 福岡伸一教授が登場

07年11月

- 青山学院共同出資による「AGDマテリアル株式会社」設立
- 青山学院大学オリジナルブックカバーを作成しました
- 2008年4月、社会情報学研究所設置に伴い演習授業にSCAW生産管理システムを採用した講座を開講
- 福岡伸一理工学部(化学・生命科学科)教授が、第29回「サントリー学芸賞」を受賞
- 経済学研究所公共・地域マネジメント専攻 第1回(11/28)説明会開催のお知らせ
- 国際マネジメント研究科入試説明会(12/15開催)のお知らせ
- 本学硬式野球部の小林賢司選手と小窪哲也選手が、ドラフト指名を受けました
- 秋光純理工学部教授がアメリカ物理学会(APS)より“2008 James C. McGroddy Prize for New Materials”を受賞
- 「青山学院スタイル」に、国際協力機構(JICA) 上田直子さんが登場

07年12月

- 次期大学長に伊藤定良(いとう さだよし)教授を選任しました
- 男子バスケットボール部が第59回全日本学生バスケットボール選手権大会で優勝

2007年度 父母懇談会実施状況報告

本学では、「大学後援会」の事業活動の一環として、在学生の保護者の皆様に対し、大学の近況をお知らせするとともに、学業成績、学生生活、進路、就職活動等の現況について全体的な説明と個別面談を行う父母懇談会を日本全国で開催しています。これは保護者の皆様と大学との密接な関係を図ることを目的として始められた事業です。

●**首都圏父母懇談会**……東京、埼玉、千葉、神奈川の各都県在住2・3年生の保護者の皆様を対象に、人文・社会科学系の各学部は青山キャンパス、理工学部は相模原キャンパスにおいて実施しました。全体説明会では、特に学業成績および就職の説明に熱心に耳を傾けている姿が見受けられました。現役の学生を迎えて、就職活動の実体験を話してもらう学部もありました。全体説明会後の個別面談では、学業成績、就職はもちろんのこと、外国留学のこと、大学院のことについても多くの質問や相談がありました。

●**地区父母懇談会**……上記首都圏以外の、全国各道府県在住1～4年生の保護者の皆様を対象に、全国19ヶ所の都市で実施しました。今年度の開催会場は別表のとおりです。

地区父母懇談会では、大学代表者の挨拶および大学の近況報告があり、続いて各担当者から学業成績、就職、学生生活についての説明がありました。限られた時間ですが、パワーポイント等を活用し、工夫を凝らしました。学生たちとのエピソードを交えた大学代表者の話に、ご子女を重ね合わせながら聞き入っている様子が印象的でした。

引き続き開かれる昼食会は、大学関係者と気さくにお話ができる場となりました。また、保護者同士で交流を深める機会ともなったようです。校友の方々に参加していただいた会場では、地元での卒業生の活躍など、心強いお話を聞くことができました。

昼食会後には、個別面談がありました。質問内容に応じて、各ブースの担当者とはじっくり相談ができる時間となりました。なかでも、学業成績、進路・就職についての相談が多かったようです。

「今まで、学生生活全般について子ども任せのところがあったが、父母懇談会を通して親がしっかりサポートできるお話を聞くことができた」というご意見がありました。今後もいただいたご意見をもとに、開催会場の検討、開催内容の充実をはかっていきたいと思っております。



首都圏父母懇談会全体説明会開催風景

2007年度父母懇談会 (地区)

対象道府県	開催都市	開催日	会場
北海道	旭川市	9月16日(日)	旭川グランドホテル
	札幌市	9月15日(土)	ホテルオークラ札幌
青森県	八戸市	9月22日(土)	八戸第2ワシントンホテル
宮城県	仙台市	9月23日(日)	仙台国際ホテル
栃木県	宇都宮市	9月9日(日)	ホテル東日本宇都宮
群馬県	高崎市	7月21日(土)	高崎ビューホテル
富山県	富山市	9月1日(土)	富山全日空ホテル
山梨県	甲府市	7月29日(日)	ホテル談露館
静岡県	静岡市	8月4日(土)	静岡グランドホテル中島屋
愛知県	名古屋	8月5日(日)	名古屋マリオットアソシアホテル
兵庫県	神戸市	8月18日(土)	ホテルオークラ神戸
鳥取県	米子市	8月25日(土)	米子全日空ホテル
岡山県	岡山市	8月19日(日)	ホテルグランヴィア岡山
徳島県	徳島市	8月26日(日)	ホテルクレメント徳島
香川県	高松市	9月9日(日)	全日空ホテルクレメント高松
山口県	周南市	7月7日(土)	ホテルサンルート徳山
福岡県	福岡市	7月8日(日)	ホテルオークラ福岡
熊本県	熊本市	7月14日(土)	熊本全日空ホテルニュースカイ
沖縄県	那覇市	7月28日(土)	ロワジュールホテル那覇

※首都圏以外の全道府県在住1～4年生の保護者の方対象

(首都圏)

学部	開催日	会場
文学部、文学部第二部	6月16日(土)	青山キャンパス
経済学部、経済学部第二部	6月23日(土)	
法学部	6月9日(土)	
経営学部、経営学部第二部	5月19日(土)	
国際政治経済学部	5月26日(土)	
理工学部	10月6日(土)	相模原キャンパス

※東京・埼玉・千葉・神奈川各都県在住2・3年生の保護者の方対象

Club & Circle Information

問い合わせ先
〒150-8366 青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。下記大会、演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2008年1月～2月)

- 硬式庭球部(男子・女子) 関東学生選抜テニストーナメント(2月)
関東学生新進選手権大会(2月)
- 水泳部 冬季東京都記録会(2月)
- スキー部 全日本学生スキー選手権大会(1月)
- 卓球部(男子) 全日本卓球選手権大会(1月)
- 卓球部(女子) 全日本卓球選手権大会(1月)
神奈川オープン大会・大阪オープン大会(2月)
- バスケットボール部(男子) 第83回全日本総合バスケットボール選手権(1月)
- フェンシング部 JOC(ジュニアオリンピックカップ)(1月)
- 陸上競技部 千葉マリンハーフマラソン(1月)
神奈川マラソン・浜名湖一周駅伝(2月)
- レスリング部 天皇杯全日本選手権(1月)
- 吹奏楽バトントワリング部 東京都大学吹奏楽アンサンブルコンテスト(1月)
関東バトントワリングコンテスト(2月)
- グリーンハーモニー合唱団 フェアウェルコンサート2008(2月)

主要活動報告(2007年10月～11月)

- 卓球部(女子) 第74回全日本学生卓球選手権大会
女子ダブルス/阿部恵・山崎知春ペア 優勝
第74回全日本学生卓球選手権大会 女子シングルス/大槻麻奈 3位
- レスリング部 全日本大学グレコローマン選手権 66kg級 板倉史也 優勝
全日本大学グレコローマン選手権 120kg級 河野隆太 3位
- バスケットボール部(男子) 第83回関東大学バスケットボールリーグ戦1部リーグ 優勝
- 漕艇部 第30回東日本新人選手権競漕大会 男子シングルスカルの部/大槻寿晃 優勝
- フェンシング部 第7回北岡杯フェンシング大会 男子フルレー 望月周 3位
第7回北岡杯フェンシング大会 女子エペ 一柳風未 優勝
第7回北岡杯フェンシング大会 女子エペ 森崎子 3位



渡辺 節夫
文学部史学科 教授

誌上公開講座 No.40

青山スタンダード フレッシュャーズ・セミナー

「中世フランスの王と貴族たち」

昨年度からフレッシュャーズ・セミナーを担当しています。今年度も後期に開講しており、三分の二が終わったところです。色々自分なりに工夫してきたつもりですが、これを機会に「中間総括」を試みようと思います。

ヨーロッパの“中世”という何を思い浮かべるでしょうか。騎士、十字軍、ジャンヌ・ダルク…。また、どのような時代としてイメージされているでしょうか。学生にアンケートを取ってみると意外と“華やかな時代”というイメージでとらえられているのに驚きます。しかし、よく聴いてみると、どうもその次の時代である近世とゴッチャになっているようです。テレビなどで16・17世紀に建てられた城について、“中世の面影を残しています”などと説明しているのを見かけますが、そのせいかもしれません。

しかし、よく考えてみますと、これもあながち“時代錯誤”ではない、ということになります。“近世”という時代の位置づけが非常に難しいのです。それを近代の初期とみるか、中世の連続とみるか、まったく異なる見方が交錯しているからです。そうすると“中世”の位置づけも難しくなってきます。近代のスタート点を1200年頃とする見方さえあります。1200年頃という教科書的には“中世の最盛期”ということになっているのです。

何を指標にするかで、時代区分は全く違うものになってしまいます。中央集権化という面だけで見れば、近代は遡って1200年まで行き着いてしまいます。「各時代の特徴をとらえ、時代間の違いを明らかにし、人間の歩みとその方向性を明らかにする」というのが時代を区分する本来の意味なのですが、その趣旨が曖昧になっているのが実情なのです。私は中世という時代の本質は“封建王制”にあると考えています。その特徴は権力の分散と王権による集中にあります。この一見矛盾する“分散”と“集中”がいかにして両立できていたかを解明することが、中世を学ぶ場合のキー・ポイントだと思います。ヨーロッパの観光スポットはたいがい城と教会ですが、ともに貴族、領主

の支配の拠点であり、権力の分散化の象徴なのです。パリのノートル・ダムのカテドラルも単なる祈りの場所ではなく、そこで活動する聖職者たちも、司教をはじめとして、みな正真正銘の領主だったのです。

このようなことを念頭に、フレッシュャーズ大学入学後間もない新入生を対象としたこの講義をどのようにイメージし、目標をどのように設定するか、が先ず問題となります。このセミナーでは、特に①問題の発見と解決能力の修得、②自分自身の意見・見解の表現能力の鍛錬、を目標にしています。

①については企業家も盛んにその必要性を強調していますが、これが実際はなかなか難しく、“問題を発見すること”の説明から始めなければならないのが実情です。最近では対象にしていること、ここでは「フランスの中世社会」について、基本的なことが理解できていなければ、疑問も問題も浮かんでこないことがわかってきました。もう一つは「問題が設定できたときには、すでに解答の方も7、8割は用意されている」ということです。これは、“仮説”を立てることを意味すると思いますが、もう一步先のことになります。

②については具体的にはレポートのしかた、ということになります。最近では“プレゼンテーション”という言葉が学生もよく口にしますし、「レ



ポートの書き方」というタイトルの書物も数多く出版されています。これが教育の一環として強く意識されるようになったことは結構なことだと思いますが、全体的にテクニックの伝授に傾斜し過ぎているように思われます。やはり大事なのは内容です。

このように①も②も本当の意味で体得するのはなかなか難しいと思います。毎回、教科書を分担して交互にレポートする形をとっていますが、今年度は教科書をモデルにして、問題の設定とその解決を“追体験する”ことに力点を置くことにしています。年度末に再度レポートを提出することになっていますが、そこで「問題の発見と解決」を体得してもらいたいと思っています。その時までには、「レポートの書き方」について、これまでの大学教育の経験を踏まえて、わかり易いマニュアルを用意することが私の課題となっています。



2008年度学事暦（学部） ※大学院生は掲示板等を参照してください。

前期

4月1日(火)	オリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断 (10日(木)まで) ※詳細は、「学年初頭行事」の冊子等で確認ください。
4月4日(金)	入学式(学部・大学院)
4月11日(金)	前期授業開始 新入生歓迎礼拝(17日(木)まで)(相模原)
4月15日(火)	新入生歓迎礼拝(第二部)
4月17日(木)	履修登録最終日(青山屋間部)
4月18日(金)	履修登録最終日(相模原、第二部)
5月12日(月)	ペンテコステ礼拝(相模原、青山屋間部)
5月13日(火)	ペンテコステ礼拝(第二部)
5月19日(月)	前期チャペル・ウィーク(24日(土)まで)
5月23日(金)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝(相模原、青山屋間部)
6月21日(土)	アドバイザー・グループ・デー(全キャンパス休講)
7月11日(金)	火曜日の授業実施(振替)
7月16日(水)	補講日(17日(木)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
7月18日(金)	補講日(22日(火)まで)(第二部のみ) 前期定期試験期間(31日(木)まで)
7月31日(木)	清里サマー・カレッジ(8月2日(土)まで)
8月1日(金)	夏期休業期間(9月20日(土)まで)
9月27日(土)	9月学部・大学院学位授与式

後期

9月22日(月)	後期授業開始
10月11日(土)	相模原祭(13日(月)まで)(11日(土)は相模原キャンパスのみ休講)
10月20日(月)	後期チャペル・ウィーク(25日(土)まで)
10月31日(金)	青山祭(11月4日(火)まで)(全キャンパス休講)
11月11日(火)	創立記念礼拝(青山屋間部、第二部)
11月12日(水)	創立記念礼拝(相模原)
11月15日(土)	第二部オータム・カレッジ(16日(日)まで)
11月16日(日)	創立記念日
11月28日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12月16日(火)	クリスマス礼拝(青山屋間部・第二部合同)
12月18日(木)	クリスマス礼拝(相模原)
12月24日(水)	冬期休業期間(1月6日(火)まで)
1月7日(水)	後期授業再開
1月14日(水)	月曜日の授業実施(振替)
1月15日(木)	補講日(17日(土)まで)(相模原、青山屋間部、第二部)
1月16日(金)	大学入試センター試験準備日(青山キャンパスのみ休講)
1月17日(土)	大学入試センター試験(18日(日)まで) (17日(土)は青山キャンパスのみ休講)
1月21日(水)	補講日(24日(土)まで)(第二部のみ) 後期定期試験期間(2月3日(火)まで)
3月25日(水)	卒業礼拝、学部・大学院学位授与式

2008年度学年初頭行事についてのお知らせ

年度初頭には、各学部・学科ごとに書類配布、履修ガイダンス、学生証更新、健康診断など大切な行事があります。日時、場所等の詳細は、青山・相模原両キャンパス所属学生とも学生ポータル(1月中旬以降)・学部等掲示板(1月中旬以降青山キャンパスのみ)あるいは大学ウェブサイト(3月中旬以降に掲載)で確認してください。次号のAGUニュースNo.41でも日時、場所等をお知らせいたします。

進路・就職関係行事のお知らせ

青山キャンパス

行事	対象学年	日程	備考
学内OB・OG訪問	学部3年生	2/5(火)、6(水)、7(木)	15号館
業界企業研究セミナー	院1年生	2/5(火)、6(水)、8(金)	学生ホール (ブース形式)

☆2/7~2/21の期間は、入学試験による入構制限があるため、ウェスレーホール1階で相談業務のみ行います。

相模原キャンパス(理工学部生・理工学研究科生対象)

行事	対象学年	日程	備考
個別企業説明会	学部3年生 院1年生	2月下旬	詳細は掲示板等を参照

※追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。
また、就職の相談は随時受け付けていますので、来室し申し出てください。

卒業の決まった4年生のみなさんへ 卒業後の進路の報告について

青山学院大学長 伊藤 定良 / 就職部長 仁科 貞文

青山学院大学では、みなさんに卒業後の進路を報告していただいています。就職、進学、現職の継続、留学、各種試験受験準備などの報告を、卒業の決定した4年生全員に提出いただきます。

報告いただいた内容は、進路状況のデータをまとめた「卒業生進路状況報告書」として学内で利用されます。個人の名前や就職先が学外に公表されることは決してありません。また、官公庁などへの統計資料としても必要となりますので、必ず報告してください。

民間企業や公務員・教員などに内定された方には、「就職活動報告書」を提出していただいております。この報告書は、後輩の就職活動に大変役立っておりますので、併せてご提出をお願いいたします。

みなさんのこれからの活躍を、ここからお祈りいたします。

進路報告書の提出先

青山キャンパス(人文・社会科学系学部)

……………進路・就職センターへ「進路届」を提出

相模原キャンパス(理工学部、理工学研究科)

……………学生支援ユニット進路グループへ「進路先届」を提出

※人文・社会科学系の大学院生については、学位記を受け取る際に、進路に関する調査用紙をご提出いただきます。

春期休業中の窓口案内 対象期間 2/5~3/31

部 署	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考	
青山キャンパス	教 務 課	2/22~3/31	月~金 9:00~19:00(11:30~12:30は窓口停止) 土 9:00~19:00(11:30~14:00は窓口停止)	2/5~2/21は窓口停止 4/1より平常通り	
	教 職 課 程 課	3/7~3/31	月~土 9:00~16:00(土は11:30まで)	3/7は19:00まで 4/1より平常通り	
	学 生 部	2/22~3/31	月~金 9:00~19:00(15:00~16:00は窓口停止) 土 9:00~19:00(11:30~16:00は窓口停止)	2/5~2/21、3/25は窓口停止 4/1より平常通り	
	進 路 ・ 就 職 セ ン タ ー	2/5~2/6 2/22~3/31 2/7~2/21	月~土	9:00~16:00 (月・水・金は19:00まで、土は12:00まで) 9:00~16:00(土は12:00まで)	窓口停止時間(月~金) 16:00~17:00 資料室は月・水・金19:00、火・木17:00、 土13:00まで利用できます ウェスレー・ホール1階で相談業務のみ行います
	図 書 館	2/22~3/31	月~土	9:00~19:00	貸出期限を厳守してください。休館中の本の返却は正面入口脇のブックポストに入れてください
	大 学 院 事 務 室	3/7~3/31	月~土	9:00~18:30(土のみ13:00まで) (11:30~12:30、16:00~17:00は窓口停止)	2/5~3/6は入学試験業務のため窓口停止
	専 門 職 大 学 院 事 務 室	2/5~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ13:00まで)	窓口停止時間 11:30~12:30 集中講義への個別対応は別途指示
	広 報 入 試 セ ン タ ー	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	
	情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	2/5~3/31	月~土	9:00~19:00	年度未処理の為、施設およびネットワーク利用停止期間があります ※PC/会議室日は左記と異なりますのでWeb 掲示板参照のこと
	国 際 交 流 セ ン タ ー	3/1~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	2/5~2/29は窓口停止
	外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	3/1~3/31	月~金	9:00~19:00	2/5~2/29は窓口停止
	学 生 相 談 セ ン タ ー	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ11:30まで)	火・金の夜間開室は4/11より 昼休み11:30~12:30
	保 健 管 理 セ ン タ ー	2/5~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで)	昼休み11:30~12:30 4/11より平常通り
	宗 教 セ ン タ ー	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00)	4/11より平常通り

2月7日(木)~2月21日(木)の期間は、2008年度入学試験のため青山キャンパスへの入構が制限されます。
上記期間に入構の場合は警備室に用件を告げ許可を得た上で、西門または東門から入構してください。

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考	
相模原キャンパス	学生支援ユニット	スチューデントセンター	2/22~3/31	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで) 窓口停止時間 11:30~12:30	2/5~2/21、3/25(学位授与式)、4/4 (入学式)は窓口停止 4/1より平常通り ※2/5、14、15は追試験業務のみ窓口事務を行います
		学 務 グ ル ー プ ※				
		進 路 グ ル ー プ				
		国 際 交 流 グ ル ー プ				
		学 生 生 活 グ ル ー プ				
	教育・学習支援ユニット	健康管理グループ(保健管理センター事務室)	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	毎月第4水はメンテナンスのため、13:30よりPC教室利用不可。年度未処理に伴う利用案内は別途お知らせします 3/5~3/7蔵書点検のため閉館 4/11より平常通り
		健康管理グループ(学生相談センター事務室)				
		授 業 支 援 グ ル ー プ				
		情 報 教 育 支 援 グ ル ー プ (情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー)				
		図 書 グ ル ー プ (図 書 館)				
	研究支援ユニット	メディアライブラリーグループ (外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー 事 務 室)	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/11より平常通り
		研 究 支 援 グ ル ー プ				
	企画・渉外・庶務ユニット	企 画 グ ル ー プ	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	
		地 域 渉 外 交 流 グ ル ー プ 庶 務 グ ル ー プ				
	施設ユニット	施 設 グ ル ー プ	2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで
財務部 大学相模原経理グループ		2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	現金取り扱い16:00(土のみ11:00)まで	
宗 教 セ ン タ ー		2/5~3/31	月~土	9:00~17:00(土のみ13:00まで)	4/11より平常通り	

詳細は各掲示板をご覧ください。

成績の通知について

2007年度の成績通知書は、卒業決定者以外の学生は3月中旬に保証人住所宛に郵送されます(除大学院)。卒業・修了決定者については、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

在学生は2008年4月のオリエンテーション開始日より学内情報端末から各自成績通知書を印刷し、確認してください(除大学院博士後期課程)。

2007年度学位授与式・卒業礼拝

2007年度学部卒業生および大学院修了生を対象として、下記のとおり「学位授与式」が挙行されます。これに先立ち、3月25日(火)10:00~11:00にガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)において、卒業礼拝が挙行されます。

	学部	大学院
期日	3月25日(火)	3月25日(火)
時間	13:00~	16:00~
場所	青山学院記念館(青山キャンパス)	ガウチャー記念礼拝堂(青山キャンパス)

卒業・進級に関するお知らせ

対 象	日 程	時 間	方 法
卒業・修了決定者発表			
昼間部	3/7(金)	10:30	学生ポータル
第二部(夜間部)			
理工学研究科			
大学院 (除理工学研究科)	研究科により発表日が異なるので大学院事務室または専門職大学院事務室掲示板で確認してください		
卒業見込決定者発表(理工学部のみ)			
理工学部	3/8(土)	10:30	学生ポータル
進級決定者発表			
相模原キャンパス在学生 (除理工学部)	3/7(金)	10:30	学生ポータル
第二部2年生			

- ※電話による問い合わせには一切応じておりません。
- ※卒業・修了生は、必ず2月29日(金)までに借りている図書を図書館へ返却してください。
- ※卒業の決まった学生は全員、卒業後の進路報告をする必要があります。
青山キャンパスの学生は進路・就職センターに「進路届」、相模原キャンパスの学生は学生支援ユニット進路グループに「進路先届」を提出してください。

大学学費改定について (大学院は除きます。)

2008年度より、授業料を据置き、施設設備料について漸増制を適用いたします。
これにより入学時にお知らせしていましたが2008年度以降の年間納入予定額が下記に示すとおりとなります。

2008年度以降の新学費 ※()の金額は入学手続き時にお知らせした学費です。 単位:円

学部	学年	2007年度入学生	2006年度入学生	2005年度入学生
文学部	2年	934,000 (934,000)		
	3年	945,000 (945,000)	934,000 (934,000)	
	4年	956,000 (957,000)	945,000 (945,000)	934,000 (934,000)
文学部(心理学科)	2年	964,000 (964,000)		
	3年	975,000 (975,000)	964,000 (964,000)	
	4年	986,000 (987,000)	975,000 (975,000)	964,000 (964,000)
経済学部	2年	934,000 (934,000)		
	3年	945,000 (945,000)	934,000 (934,000)	
	4年	956,000 (957,000)	945,000 (945,000)	934,000 (934,000)
法学部	2年	944,000 (944,000)		
	3年	955,000 (955,000)	944,000 (944,000)	
	4年	966,000 (967,000)	955,000 (955,000)	934,000 (934,000)
経営学部	2年	944,000 (944,000)		
	3年	955,000 (955,000)	944,000 (944,000)	
	4年	966,000 (967,000)	955,000 (955,000)	934,000 (934,000)
国際政治経済学部	2年	954,000 (954,000)		
	3年	965,000 (965,000)	954,000 (954,000)	
	4年	976,000 (977,000)	965,000 (965,000)	954,000 (954,000)
理工学部	2年	1,403,000 (1,403,000)		
	3年	1,420,000 (1,420,000)	1,403,000 (1,403,000)	
	4年	1,437,000 (1,437,000)	1,420,000 (1,420,000)	1,403,000 (1,403,000)
第二部(全学部)	2年	554,000 (554,000)		
	3年	561,000 (562,000)	554,000 (554,000)	
	4年	568,000 (570,000)	561,000 (562,000)	554,000 (554,000)

注1 諸会費(学生会費・後援会費・学生会費・第二部卒業記念積立金)については左記金額に含んでおりません。諸経費を含めた実際の納入金額は下記2008年度学費一覧表をご覧ください。

注2 編入学・転部・転学部・転学科・再入学・留年等は左記一覧表には含んでおりません。

大学・大学院学費納付について (大学院の学費納付の期限等については大学院要覧を参照してください。)

〈学部生〉

1. 学費振込依頼書発送・納付期限等について

- 前期振込依頼書発送予定 4月上旬【納付期限4月下旬】
後期振込依頼書発送予定 9月上旬【納付期限9月下旬】
- 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(申し出のあった場合は学生宛)に送付いたします。
- 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料が無料です。その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業協同組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。
※ご注意 自動振込機(ATM)による振込は絶対にしないでください。(学生番号、学生氏名の確認ができないため。)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- 住所変更(保証人・本人)
→学生部厚生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- 学費の延納・分納を希望する場合
→学生部学生課(青山)・学生生活グループ(相模原)
- 休学・退学を希望する場合
→昼間部(3・4年)および第二部は学務部教務課(青山)
→昼間部(1・2年、理工学部全学年)は学務グループ(相模原)
- 学費振込依頼書を紛失した場合
→財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)

青山キャンパス学生部学生課(学部生) 03-3409-7835(ダイヤルイン)
相模原キャンパス学務グループ 042-759-6003(ダイヤルイン)
相模原キャンパス学生生活グループ 042-759-6004(ダイヤルイン)

3. 編入学・転部・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

4. 4年次で留年した学生の学費振込依頼書発送については、前期は5月中旬【納付期限6月上旬】です。後期は10月中旬【納付期限11月中旬】になります。

5. 年間学費を一括して納付することもできます。

(4年次再修業者を除く)
希望される場合は学生部学生課・学生生活グループに申し出てください。

6. 教育ローンについて

本学では銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第41号(4~5月号)に掲載いたします。

問い合わせ先:財務部本部資金グループ 03-3409-6479(直通)

2008年度 大学学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部・学科	2007年度入学生		2006年度入学生		2005年度入学生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
昼間部	教育学科	557,500		557,500		557,500
	英米文学科	556,700		556,700		556,700
	フランス文学科	558,000		558,000		558,000
	日本文学科	557,500		557,500		557,500
	史学科	558,500		558,500		558,500
	心理学科	589,500	391,500	589,500	391,500	589,500
	経済学部	558,500		558,500		558,500
	法学部	569,500		569,500		559,500
	経営学部	568,500		568,500		558,500
	国際政治経済学部	579,500		579,500		579,500
第二部(夜間部)	教育学科	321,000		321,000		321,000
	英米文学科	320,200	246,000	320,200	246,000	320,200
	経済学部	322,000		322,000		322,000
	経営学部	322,000		322,000		322,000
理工学部	853,500	565,500	853,500	565,500	853,500	565,500

転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除く。

※金融機関の窓口で、10万円を超える現金での振込みを行う場合には、本人確認書類の提示が必要です。手続きを行う方の本人確認書類(運転免許証、健康保険証、パスポートなど)が必要です。なお、預貯金口座を通じて振込みを行う場合には、上記手続きは不要です。但し、口座開設時に本人確認手続きが済んでいない場合には、窓口で本人確認書類の提示が必要となることがあります。

参考 金融庁ホームページ <http://www.fsa.go.jp/policy/honnikakunin/>

2008年度 大学院学費一覧表(入学年度別)

単位:円

研究科・専攻	2007年度入学生		2006年度入学生	
	前期	後期	前期	後期
文学(教育)博前・博後	323,500		273,500	
文学(英米)博前・博後	322,700		272,700	
文学(フランス文)博前・博後	324,000		274,000	
文学(日本文)博前・博後	323,500		273,500	
文学(史)博前・博後	324,500	257,500	274,500	257,500
文学(心理)博前・博後	361,500		311,500	
経済学博前・博後	324,500		274,500	
法学(ビジネス法務を除く)博前・博後	325,500		275,500	
法学(ビジネス法務)修士2年制・博後	415,500		365,500	
法学(ビジネス法務)修士3年制	338,000	180,000	338,000	180,000
経営学博前・博後	340,500		290,500	
国際政治経済学修士・博後	465,500	257,500	365,500	257,500
国際マネジメント一貫制博士	465,500		465,500	
理工学博前	560,000			
理工学博後	590,000	373,000	490,000	373,000
国際マネジメント専門職2年制	656,000	378,000		
国際マネジメント専門職3年制	546,000	268,000	546,000	268,000
法務専門職	708,000	500,000	708,000	500,000
会計プロフェッション専門職	807,000	600,000		
会計プロフェッション博後	394,500	257,500		

博前は博士前期課程、博後は博士後期課程

※留年・3年次編入学は除く

2008年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程

●一般入学試験 試験会場：青山キャンパス

●大学入試センター試験利用入学試験

学部・学科・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
総合文化政策学部 総合文化政策学科(A方式)	2/9(土)	2/15(金)	2/22(金)	2/22(金)
社会情報学部 社会情報学科(A方式・B方式・C方式)				
理工学部 物理・数理学科(A方式) 化学・生命科学科(A方式) 電気電子工学科(A方式) 機械創造工学科(A方式) 経営システム工学科(A方式) 情報テクノロジー学科(A方式)	2/10(日)	2/17(日)	2/25(月)	2/25(月)
物理・数理学科(B方式) 化学・生命科学科 (B方式・センタープラス方式) 電気電子工学科 (B方式・センタープラス方式) 機械創造工学科 (B方式・センタープラス方式) 経営システム工学科(B方式) 情報テクノロジー学科 (B方式・センタープラス方式)	1/4(金)~1/26(土) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)			
2/11(月)				
文学部 教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科(A方式・B方式) 日本文学科(B方式) 史学科 心理学科 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学科(A方式)	2/13(水)	2/20(水)	2/27(水)	2/27(水)
2/14(木)				
経営学部 経営学科(A方式・B方式・C方式)	2/15(金)	2/21(木)	2/28(木)	3/3(月)
法学部 法学科(A方式・センタープラス方式)	2/17(日)	2/23(土)		
国際政治経済学部 国際政治学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式) 国際経済学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式) 国際コミュニケーション学科 (A方式・B方式・学科同時エントリー方式)	1/4(金)~1/31(木) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/18(月)	2/24(日)	
経済学部 経済学科(A方式・B方式) 現代経済デザイン学科(A方式・B方式)	2/19(火)	2/25(月)		
総合文化政策学部 総合文化政策学科(B方式)	[郵送受付期間] 1/4(金)~2/5(火) (締切日消印有効) [窓口受付日] ◎文学部第二部に限る 2/12(火)のみ 於:青山キャンパス	2/21(木)	2/27(水)	3/5(水)

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(月)です(正規合格者のみ対象)。

【前期日程】

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 経営システム工学科 情報テクノロジー学科	1/4(金)~ 1/19(土)	1/19(土) 1/20(日)	2/17(日)	2/25(月)
文学部 フランス文学科 史学科				
経営学部 経営学科 法学部 法学科(3教科型・4教科型) 国際政治経済学部 国際政治学科 (3教科型・4教科型) 国際経済学科 (2教科型・3教科型・4教科型) 国際コミュニケーション学科	郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/21(木) 「平成20年度 大学入試センター 試験受験案内」を 参照してください	2/23(土)	2/28(木)
経済学部 経済学科 現代経済デザイン学科 (3教科型・4教科型)		2/24(日)		3/3(月)
		2/25(月)		

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。
※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(月)です。

【後期日程】

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 情報テクノロジー学科	2/25(月)~ 3/5(水)	1/19(土) 1/20(日)	3/15(土)	3/21(金)
経営学部 経営学科 法学部 法学科				
国際政治経済学部 国際政治学科 国際経済学科 国際コミュニケーション学科	郵送受付に限ります (締切日消印有効)	大学入試センター 試験受験案内」を 参照してください		

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。
※入学手続締切日までに、入学金を含む学費等を納入してください。

アドバイザー・グループ紹介 14

体全体で元気いっぱいのコミュニケーションを! <宮崎アド・グル>

宮崎アド・グルでは、毎週1回、授業終了後に、相模原キャンパス内でスポーツ活動を行っています。アリーナでバドミントン、テニスコートでテニス、グラウンドでサッカーなど、種目はさまざま。キャンパスの充実した施設を存分に活用させてもらっています。



経営学部 宮崎 純一 准教授

人間にとってスポーツは、素晴らしい「コミュニケーションツール」です。自分自身を磨き上げることもできますし、多くの人たちと心を通わせることもできます。スポーツで汗を流すことを通して、お互いを理解しあい、積極

的な仲間作りを進めていくことが、私たちの活動の最大の目的です。強い仲間意識が芽生えるからこそ、学期末に開催している食事会の場も大いに盛り上がります。



まだスタートして2年目の宮崎アド・グルですが、今後も活動を継続し、何年後には卒業生も含めた多くの仲間が集い、「スポーツでコミュニケーションを楽しめる場」と成長していければ理想的ですね。

お詫びと訂正 ●前号AGUニュース第39号12ページ「2007年度課外教育プログラム活動報告」において、「交流陶芸教室」と「上級救急救命法講習会」の写真を逆に掲載いたしました、お詫びして訂正いたします。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ